

■ 復習

◇ アオリストの人称語尾

	単数	複数	例	gacchati
1 人称	-iṃ	-mhā , -mha	(gacchiṃ	gacchīmḥā)
2 人称	-o -i	-ttha	(gacchi	gacchittha)
3 人称	-ī , i	-uṃ , -iṃsu	(gacchi	gacchīṃsu)

練習問題

Atha kho bhagavā bhikkhū āmantesi “bhikkhavo” ti.

■ 形容詞 adjective

◇ パーリ語の形容詞は名詞と同じように語尾が格変化する。

dīgha 長い : dīgho <m.> dīghaṃ <n.> dīghā <f.> (主格)

◇ 形容詞は名詞を修飾し、名詞と同じ性、数、格をとる。

dīgho maggo 長い道
dīghaṃ āyu 長い寿命
dīghā nadī 長い川

◇ 形容詞の女性形は、ā 語尾と ī 語尾をとるものがある。形容する名詞の語尾に関係しない。

surūpā kaññā / sundarī kaññā 美しい少女
surūpā nārī / sundarī nārī 美しい女性

◇ 形容詞は独立した形で用いられ、名詞として使われることもある。

taruṇa 若い > taruṇo 若い男性
taruṇī 若い女性
pāpaṃ 悪行
puññaṃ 善行

◇ 語頭に a 付して否定形を作る。母音から始まるものは ana を付す。

dīgha > adīgha 長くない

ariya > anariya 卑しい 下品な

◇ 形容詞の acc sg は副詞として用いることがある。

sīgham 早く dīgham 長く dūram 遠く cīram 久しく

■ 不変化詞 Indeclinable

性、数、格によって影響されず、変化しない単語で、接頭辞と不変語に分類できる。

◇ 接頭辞

接頭辞は名詞と動詞の語頭に使われる。パーリ語には20の接頭辞があるが、よく使われるものを示す。

ā まで、から、こちらへ

āgacchati 来る

ati 過ぎて、極めて、大いに

atigacchati 超える、勝る

adhi 上に、～について、増上

adhigacchati 到達する、理解する

anu 従って、順じて、次に、共に

anugacchati 従う、随行する

apa 離れて

apagacchati 去る、離れる

abhi ～に対して、向かって、勝れて、過ぎて、上に

abhivādeti 礼拝する

du 悪い、～し難い

duggandha 悪臭

ni 下に、否、無、外
nigacchati 入る、至る

paṭi , pati 対、反、逆、向かって、対して
paṭideseti 告白する

sam 共に、正しく、集まる、同じ
samāgacchati 共に来る、集会する

su 善い、易い、極めて、妙なる
sudesita 善く説かれた

upa 近く、副の、随える
upagacchati 近づく、接近する

vi 分、離、別、異、反、強化
vigacchati 去る、消失する

◇ パーリ語には他に、副詞、接続詞、間投詞、否定詞、禁止詞などの不変語がある。

■ 代名詞 pronoun p388

練習問題 次の文を訳せ

Idha socati pecca socati pāpakārī ubhayattha socati.